

ヤングケアラーの困難 見過ごさない



大人に代わって家族の世話や家事をする子どもを支援する動きが、一部の自治体で始まっている。「ヤングケアラー」と呼ばれるこうした子どもたちの困難を見過ごさず、どのようにサポートを届けるか。子どもの視点に立った取り組みを進めようとして、現場は模索している。

窓口設置後すぐ 母を支える姉妹の情報

■ 神戸市

神戸市は全国で先駆け、18歳未満のヤングケアラーと20代までの若者ケアを専門的に支援する「扶助・指導窓口」を、6月に開設した。

開設後も、市内の区役所で障害福祉を担当する職員から電話が入った。

「平日の昼間に来た母親に、中学生の小学生の姉妹が付添っていた。もしかして学校に行っていないのではないか」と連絡があった。

神戸市では2019年、当時21歳だった女性が介護

していた祖母（当時90）を殺害する事件が起った。

裁判では、支援が限られる

ひどい親類で、頼れる親戚などは近くはない

い。母親は「他人とかかわらないでいい」と、保護費や介護サービスの利用を拒んでいたところ。

支援窓口の職員が姉妹の学校に問い合わせるといつめられた状況が明らかになつた。市は支援策を検討し、この支援窓口を立ち上げた。

開設から10日までの3カ月の間に市と相談や来所、メールで寄せられた相談は84件。主に10~20代の当事者にかかる相談は23件で、神戸市外からの相談も

8件。主に10~20代の当事者が「ヤングケアラーサポート」の「母を支える姉妹の情報

学校で語る経験者

■ 埼玉県

埼玉県は、姉妹の県立

介助やたんの吸引など医療的ケアをしてきたが、学校

を対象にして実態調査で、およそ25人に1人がヤング

ケアラーとして結果が出ていた。

埼玉県。学校現場で生徒、「妹の世話をしている」と教職員への理解を得る、相

談しやすくなる環境をつくりたい」としている。

当事者の話を聞く「ヤングケアラーサポート」の「母を支える姉妹の情報」は、草加市のアワーと頼むのがいた

県立草加高等学校で7月から「特別親やかど塾」として始めた。話したところが終わら

る。草加西高の松本晃一教

師は「学校に来ない生徒がいる場合、教職員が生徒自

身のことが大変で、教職員の心配があるのではなく、この親達を見て、生徒の様

子がついてこられるうつてきりだ」と述べた。

終了後、「次回は理解して」という

ヘルパー派遣など補助 厚労省 予算を概算要求

■ 神戸市

市は、中学生や高校生が家庭を手伝っていたケースを

認め20代いたどりがある

と述べた。「子ども本人は介

護と連絡したりがある

といふ。「子ども本人は介

護と連絡したりある

といふ」と述べた。

「母を支える姉妹の情報

のつくり」（16・3%）な

んだ。（神戸新聞）

性は、中学生や高校生が家

庭を手伝っていたケースを

認め20代いたどりがある

と述べた。

（神戸新聞）

神戸市らのほか、若者ケア・相談、女

支援窓口の岡本和久議長＝神戸市中央区

岡本和久議長（左）＝埼玉県議会

の結果を受けて実行となり

た。実施するにあたっては、

「母を支える姉妹の情報

のつくり」（16・3%）な

んだ。（神戸新聞）

性は、中学生や高校生が家

庭を手伝っていたケースを

認め20代いたどりがある

と述べた。

「母を支える姉妹の情報

のつくり」（16・3%）な

んだ。（神戸新聞）

性は、中学生や高校生が家

庭を手伝っていたケースを

認め20代いたどりがある

と述べた。

（神戸新聞）